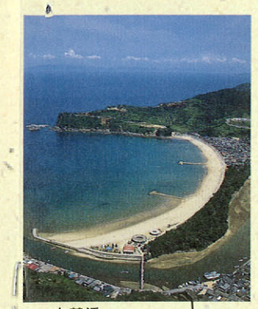
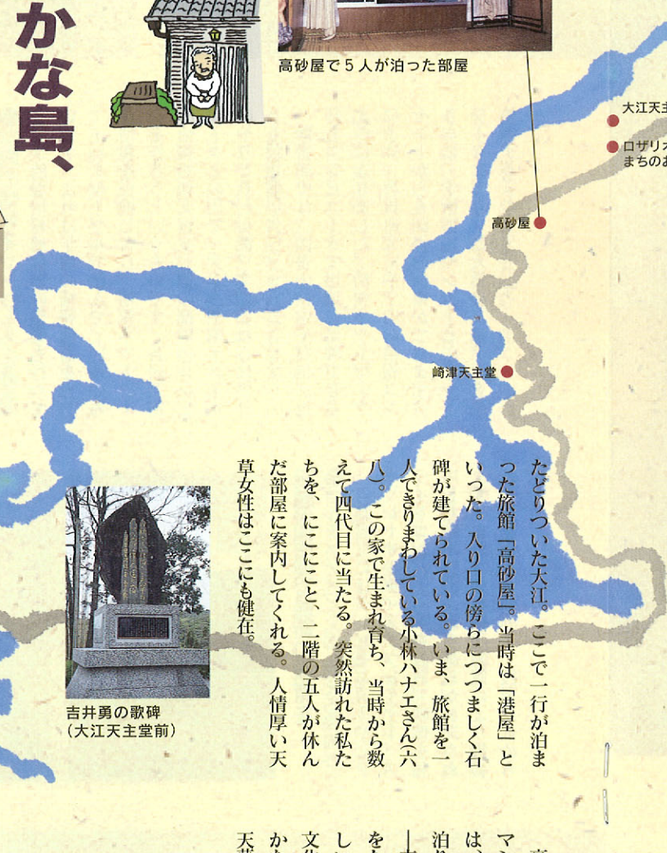
「五足の靴」の跡

「とにかく天草は、女性的な島である。風光明媚なこと、ちょっと類がなく、…」（獅子文六氏「南の風」）。天草には、さまざまな文学者が訪れ、多くの人が魅了されてきた。明治四十年八月、この地を訪ねた北原白秋をはじめ、「新詩社」の与謝野鉄幹、木下杢太郎、平野万里、吉井勇の五人も、天草のキリシタン遺跡と異国情緒にあこがれてきた詩人たち。その時の紀行文「五足の靴」を手掛かりに、天草での五人の〝靴の跡〟をたどってみた。


白鶴浜

天草灘の夕景

高砂屋で５人が泊った部屋



天草町下田の文学遊歩道

建設中の苓北火力発電所

四季咲岬から、天草灘と長崎県

▼凪いだ海の面に青紫色の島影

五人の芸術に、大きな影響を与えた「五足の靴」の天草紀行。その始まりは、長崎の茂木から天草下島の富岡半島へ向かう船だった。

海は、「風がざあざあと鳴ると波がどどおと答へる。…何しろ痛い暴風だ。…左右に揺れるとごろごろと転がる」というひどい荒れ方。五人は詩をつくるどころではなかったらしい。

八十七年前の八月、荒れ狂った海は底が見えるほど澄んで、まったく違う表情を私たちに見せる。凪いだ海の向こうには、長崎の島影が青紫色に映し出される。

▼「蜜の少女」は人情厚い天草女性へ

富岡から大江まで、三十二キロの道のり。「難道だと聞いた。外海の波が嚙みつくがりがりの石多き径に足を悩ましつつ行くのである」―朝九時に富岡を発ち、夜十時、大江着。苦労して五人が歩いたルートは、現在、国道389号を車でまっすぐ。鬼海ケ浦や妙見浦、サンセットライン…目に痛いほど天草灘は青く、波が「がりがりと」削った岩肌はダイナミックだ。それをカメラにおさめ、休憩しながらのんびり進んでも、自動車なら大江まで三時間半ほど。

下田から鬼海ケ浦まで、五人が歩いた道がほとんど完全に保存され、文学遊歩道になっている。下田温泉の観光案内所できくと、おばさんが親切に教えてくれる。

「入り口のすぐ前に自動車の整備工場がありますから、わかります。さあ～、大人の足で一時間はかからないでしょうが…」。わざわざ、当の自動車整備工場に電話をして、所要時間を確かめてくれる。親切。全長二キロメートル、実際は大人の足で四十分ほどかかる。

「あな、わが少女、／天艸の蜜の少女よ。」（北原白秋「ただ秘めよ」）、「さみどりの胸いとかたき／無花果島の少女らに」（太田正雄「あまくさ」）―詩人たちは、繰り返し、異国情緒と自然豊かな島で生れ育った「天草少女」へのあこがれをうたう。「蜜の少女」は、長じて、人情に厚い天草女性となった…。

▼草深い山道を「ともにゆきし友みな」…

舗装道路に慣れた足には、〝道〟というより、人が草を踏みしだいて歩いた〝跡〟だ。人間一人がやっと通れる幅しかない。木が倒れ掛かっていたり、傾斜が急ですべりそうになったり…。途中湧き水が流れ出て、晴れた日にもぬかるみができている。まちがっても、革靴などはかないことだ。よくすべる。五人がはいた靴はどうだったろう。

「ともにゆきし友みなあらず我一人老いてまた踏む天草の島」。昭和二十七年、天草町大江に建てられた自身の歌碑除幕式のため、再び天草を訪れた吉井勇が、当時をなつかしんだ歌。道の途中に記されている。

途中で道に迷い、夜もふけてやっとたどりついた大江。ここで一行が泊まった旅館「高砂屋」。当時は「港屋」といった。入り口の傍らにつつましく石碑が建てられている。いま、旅館を一人できりまわしている小林ハナエさん（六八）。この家で生まれ育ち、当時から数えて四代目に当たる。突然訪れた私たちを、にこにこと、二階の五人が休んだ部屋に案内してくれる。人情厚い天草女性はここにも健在。

高砂屋から大江天主堂へ。異国のロマンを求めた「五足の靴」の天草紀行は、クライマックス。「白秋とともに泊りし天草の大江の宿は伴天連の宿」―吉井勇がこの地で詠んだ。その足跡をたどる旅も、そろそろ終り。すばらしい自然、それと同じくらい価値ある文化遺跡、それを大切に守ってきた暖かな人たち…明治の詩人を感動させた天草の魅力は、今も尽きることがない。

ガルニエ神父の墓
（大江天主堂横）

吉井勇の歌碑
（大江天主堂前）

牛深漁港連絡橋（建設中）

「蜜の少女（をとめ）」を育んだ豊かな島、キリスト教とロマンの香り、天草はいまも、あこがれの島。

DATA

■富岡港
明治時代には船で２時間だった茂木（長崎市）～富岡間。現在は高速船で35分、フェリーで70分に短縮。富岡港のある富岡半島は、美しい陸けい島として知られる。

■KDD苓北海底ケーブル中継所
中国の上海まで伸びる、長さ1,040kmの海底ケーブル。昭和51年10月に敷設された。与謝野ら５人が上陸した天草は、今アジアへ向かって開かれている。

■国道389号・高浜バイパス
国道389号が通る天草町高浜地区は、急カーブと狭い道幅が悩みの種だった。そのため昭和56年からバイパス工事に着手、4月27日全線（4.4km）が完成。交通混雑が減り、通行時間も短縮された。

■天草町営玩具資料館「まちのおもちゃ箱」
天草町大江のロザリオ館横に４月28日オープン。大江地区の中道為次さん（81）が収集した全国の伝統的おもちゃなど、約2,600点が展示されている。入館料、大人210円。

■牛深漁港連絡橋
アートポリス参加事業の一つ。牛深の自然への調和を考え橋脚はできるだけ少なく、また、車からも風景を楽しめるよう、欄干が邪魔にならない造りになっている。設計はイタリア人のレンゾ・ピアノ氏。平成９年完成予定。